

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	口腔内保健指導事業 (節目歯科健診)								
1-2 担当	部	健康福祉部	課又は施設	医療健康課	係	健康係	評価票作成者	健康推進担当係長 川原静恵	
1-3 総合計画における施策の体系	①節	保健福祉				③基本施策	成人・老人保健	コード	2-1-1
		「健康で安心して暮らせるふれあい・支えあいのまちづくり」				④単位施策(中)	歯科保健対策の充実	コード	2-1-1-6
	②項	健康				⑤単位施策(小)	口腔内保健指導の充実	コード	2-1-1-6-2
1-4 事務事業の目的・精査	対象と対象の数	一般市民(30歳から70歳までの10歳刻みの対象者)	意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)		健康アクションプラン2.1の基本項目の一つとして、市民自らが口腔内に関心をもち生活習慣予防のための口腔衛生に努めることができる				
1-5 事務事業の内容	30歳から10歳刻みの成人を対象とした、医療機関で行う歯科健診・歯科指導を実施(平成20年度から成人歯科検診終了につき、事業充実のため5歳刻みに変更)								

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み	社会状況等の事務事業がおかれる環境把握	市民ニーズの認識
	平成18年度 節目歯科健診(歯科医療機関方式)の実施機関を2か月間延長し受診者の拡大をはかった。	最近のデータでは、生活習慣病と歯周疾患との因果関係が明らかにされており、ますます口腔衛生事業への充実が必要となってくる。	最近のデータでは、生活習慣病と歯周疾患との因果関係が明らかにされており、ますます口腔衛生事業への充実が必要となってくる。
	平成19年度 節目歯科健診(歯科医療機関方式)の実施機関を前年度と同様にする。	〃	〃
	平成20年度 対象年齢を5歳刻みに細分化し対象者の増加を図った。	〃	〃
	平成21年度 対象年齢を前年と同様にする。	歯の健康は、食物の咀嚼のほか食事や会話を楽しむなど生活の質を確保するための要素である。	8020運動を知っている人は、多くなっている。歯や口腔の自覚症状を感じている人も少なくない。
	平成22年度 歯や口腔の自覚症状を感じている人は少なくないが、市の歯科検診を受診する人は少ない。平成22年は健診時期を2か月延長。		
	平成23年度 健診票の見直しを実施し、生活習慣等の項目を取り入れた。また、かん検診無料クーポン対象で節目歯科健診対象者には、同時に歯の健診のお知らせPRを個人通知した。歯の健康は、糖尿病等全身の健康とも関係があることを市民に啓発していくことが必要である。		
	平成24年度 23年度同様、無料で受診できる健診として個人通知を実施した。症状が出現する前、予防の視点で歯科医院を受診する必要性を認識している市民は少なく必要性を継続して啓発する。		
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名	前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	8020推進運動の認知度	55.0(%)	60.0(%)	健康の視点から見た、自分の歯が80歳で20本あるという8020運動の歯科保健の認知度

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a (単位)	183 (人)	156 (人)	366 (人)	311 (人)	389 (人)	510 (人)	433 (人)			
	直接事業費 b (千円)	1,045	878	2,125	1,867	2,337	2,951	2,606			
	人件費 c (千円)	136	128	128	128	124	120	120			
	合計コスト d (b+c) (千円)	1,181	1,006	2,253	1,995	2,461	3,071	2,726			
単位コスト d/a (千円)	受診者当たり 6.5	受診者当たり 6.4	受診者当たり 6.2	受診者当たり 6.4	受診者当たり 6.3	受診者1人当たり 6.0	受診者1人当たり 6.3	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 > 【活動実績】 歯科医療機関にて節目年齢を対象とした歯科健診・歯科指導を実施 受診者433人 【直接事業費】 歯科医療機関委託料 歯周疾患健診 @6,300円×384人=2,419,200円 ハノラマ撮影検査なし @3,800円×49人=186,200円 委託料 2,605,400円 【人件費】 40時間 3,000円×40時間=120,000円

2-4 成果指標に 対応する実績と達 成度の推移	指標対応実 績 (%)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		後期目標値 に対する達 成度 (%)	-	-	104.3	-	-	-	-	-	

3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果 (アウトカム自己分 析)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度 担当課評価	A	A	A	A	A	A	A			

- 4段階評価結果 A : 上位目的である施策に貢献しているため継続する
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準 ①必要性(必要な事務事業であるか)
 ②公共性(公が実施する意味があるか)
 ③妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 ④効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 ⑤有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 ⑥市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	高齢社会を踏まえて、ますます口腔衛生の質の向上が必要となる。さらに事業の充実が求められる。	「8020推進運動」をあらゆる機会を捉えて、効めていく。	歯科健診時には歯周病予防について歯科医師等による指導を実施。細かな部分までの指導が市民には好評であった。
平成19年度	〃	対象年齢を拡大し、多くの人に歯周病予防の関心を高め、「8020推進運動」を効めていく。	〃	
平成20年度	〃	対象年齢者への情報提供を充実し、多くの人に歯周病予防への関心を高め、「8020推進運動」を効めていく。	〃	
平成21年度	生活の質を確保するためにも、若い世代から関心を持ってもらうようにすることが必要。	歯科健診をより多くの人を受診し、歯周病予防への関心を	広報で8020運動についてPRをした。歯科健診では歯科医師等による指導が実施されている。	
平成22年度	歯や口腔の自覚症状を感じて人は少なくないが、市の歯科健診を受診する人は少ない。健診期間を2か月間延長する。			
平成23年度	個人通知の影響もあり受診人数が増加した。今後も、がん検診無料クーポン券にあわせて、個人通知を実施していく。健診結果から、糖尿病のある人はCPI(歯周疾患指標)が高かった。			
平成24年度	23年度同様に個人通知を実施したが受診人数は減少。クーポン事業と合わせて個人通知は継続していく。歯肉の病気が進んでいることを表すCPIコード3以上の割合が高いので、広報やホームページなども含めて予防必要性を広めていく。			
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

4 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の 結果	結果	審査会による改善方向の指示
	平成18年度	A
平成19年度	A	継続して事業を進めること。
平成20年度	A	継続して事業を進めること。
平成21年度	A	継続して事業を進めること。
平成22年度	A	継続して事業を進めること。
平成23年度	A	継続して事業を進めること。
平成24年度	A	継続して事業を進めること。
平成25年度		
平成26年度		
平成27年度		